

令和2年度 学校評価報告書

丹波篠山市立丹南中学校

1 学校教育目標等

<p>学校教育目標 「主体的に学び、自己実現に向かう、こころ豊かな生徒の育成」</p> <p>目指す生徒像 「学ぶ姿勢」「学ぶ喜び」「学ぶ意欲」を大切にする生徒</p>
--

2 今年度の重点目標

<p>1 組織的できめ細かな生徒指導体制を確立し、生徒の心に寄りそう生徒指導を行う。</p> <p>2 コミュニティ・スクール事業を核に地域とともにある学校づくりを進める。</p> <p>3 ICTや「学び合う活動」を積極的に取り入れた授業を展開し、活用する力を育成する。</p> <p>4 キャリア教育を通して、「自立して未来を切り拓く力」を育成する。</p> <p>5 教職員の働き方改革を推進し、働きがいのある、働きやすい職場づくりを進める。</p>
--

3 学校自己評価結果

(達成状況・A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学力向上	○学びあう活動、ICTを活用した授業を推進し、「情報活用能力」「表現力」「発信力」を伸ばす。	B	授業の中でICTを活用した活動を積極的に取り入れることができた。ただコロナ禍の中で「話し合う活動」に取り組むことが困難であったため、来年度以降の重点課題として引き続き取り組みたい。
	○キャリア教育を充実し、学びに向かう姿勢を確立する。	B	各学年の発達段階に応じてキャリア教育に系統的に取り組んだが、「進路について考えている」の回答が、1、2年生では50%にとどまっていることが課題である。
生徒指導の充実	○生徒との信頼関係を基にした生徒指導の充実（未然防止・早期対応の徹底）	A	教育相談を随時実施することにより、教師と生徒との信頼関係が深まった。「褒めて伸ばす」という意識が教職員に浸透しつつある。
	○共通理解・共通実践の徹底（生徒指導委員会の方針を全職員が徹底して実践する）	B	問題が発生した段階で生徒指導委員会で指導の方向性を共有し、組織的に全職員で対応することができている。その結果、早期対応・早期解決につながった。
	○関係機関と連携しながら、きめこまかな生徒指導を実践する。）	B	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携・協力し、課題を持つ生徒に寄り添いながら指導・支援を進めることができた。
地域とともにある学校づくり	○情報発信の充実（学校便りや学級通信、ホームページで定期的に情報発信する。）	A	各種通信、ホームページで定期的に学校の取組を積極的に発信できた。どの学年でも93%以上の保護者が学校の取り組みを評価している。
	○コミュニティ・スクール事業を核に地域・保護者との協力体制を構築する。	B	学校運営協議会で「丹南中学校ポスター」を作成し、地域から生徒たちに声援を届けることができた。ただコロナ禍の中で会が中止になるなど、本年度の活動はさまざまな影響を受けた。
	○地域活動やボランティア活動に積極的に取り組むことにより、地域との信頼関係を深めていく。	C	コロナ禍の影響でさまざまな地域行事が中止となり、ボランティア活動の場を十分に提供できなかった。収束後には地域に貢献しようとする意識をしっかりと育てていきたい。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

- ・コロナ禍の中であって、生徒も教職員も非常に厳しい状況だったと思うが、感染対策や様々な工夫をしながらある程度の成果が上げられている。
- ・課題についてはそれを明らかにするとともに、教職員が共有し、来年度の取組につなげていってほしい。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・学校で評価された内容を承認する。ただ、学校運営協議会も書面での開催になるという状況の中、あらためて対話の機会が大切だと感じる。
- ・中学生時代は半分子ども、半分大人という過渡期であるが、自分の将来について考える機会を多く持つことが重要である。キャリア教育の充実に期待する。
- ・学校業務改善の推進状況については、自己評価からかなり成果が上がっていると感じる。しかし、教職員の労働状況の改善は現場だけに任せるのではなく、行政からの支援がさらに必要である。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価から「話し合う活動」や「発信する活動」が難しい状況であったことがわかる。コロナ収束後にはコミュニケーション能力を高める指導に力を入れてもらいたい。 ・1、2年生の「進路について考えている」の設問に対する肯定的な回答が低い。3年間を見通し、早い段階から生き方や進路について考えさせる「キャリア教育」を充実させる必要がある。
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のいじめを許さないという確固たる姿勢と指導方針はとても大切である。今後子どもサインを見逃さない、丁寧な指導をお願いしたい。 ・「褒めて伸ばす」という学校の姿勢については大賛成である。全職員が共有した上で、今後も大切にしていってほしい。 ・生徒指導委員会での情報交換、指導方針の共有が効果的で、いじめ問題の早期解決とアンケートの良好な結果につながっていると感じる。教職員の生徒指導の取組についての自己評価も非常に高く、全職員で取り組んでいることが分かる。 ・SNSについては様々な問題が生じている。命に関わる問題としてとらえ、関係機関と連携しながらSNSについての学習を定期的の実施することが大切である。また、保護者が我が子の情報機器の使い方について責任を持って指導するという意識を高めなければならない。
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で、地域とともにある学校づくりを進めることは非常に難しかったと思う。しかし、ホームページなどで積極的な情報発信がなされており、保護者からの評価は高い。今後も継続をお願いしたい。 ・さまざまなイベントが中止となる中、生徒たちはボランティア活動に行きたくても行けない状況であった。コロナ収束後には、中学生に様々な形で地域に貢献してほしいと願っている。